ひふみのあゆみ

ひふみ投信　追加型投信/内外/株式

2023年3月度　月次ご報告書

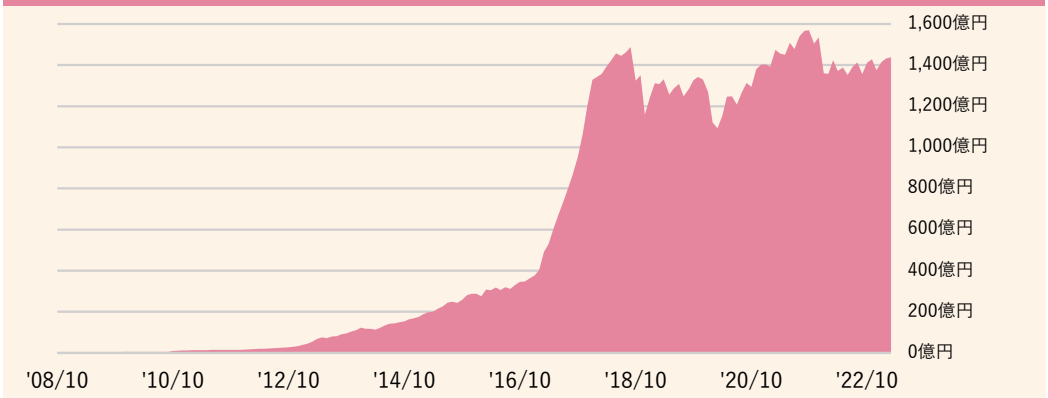
レオス・キャピタルワークスよりお客様へ
資産形成のパートナーに「ひふみ投信」をお選びいただき、ありがとうございます。
運用状況ならびに運用責任者からお客様へのメッセージなどをご報告します。

作成基準日：2023年3月31日

運用実績

基準価額の推移（日次）

純資産総額の推移（月次）



運用成績

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ひふみ投信	0.61%	4.92%	6.34%	-0.71%	32.05%	464.18%
TOPIX	1.70%	7.21%	10.70%	5.81%	53.38%	153.49%

ひふみ投信の運用状況

基準価額	56,418円
純資産総額	1,437.46億円
受益権総口数	25,478,780,547口

ひふみ投信 投資信託財産の構成

ひふみ投信マザーファンド	100.29%
現金等	-0.29%
合計	100.00%

分配の推移（１万口当たり、税引前）

第14期	2022年9月	0円
第13期	2021年9月	0円
第12期	2020年9月	0円
第11期	2019年9月	0円
第10期	2018年10月	0円
第9期	2017年10月	0円
設定来合計		0円

※当レポートで言う基準価額とは「ひふみ投信」の一万口あたりの値段のことです。また信託報酬控除後の値です。

※ひふみ投信の当初設定日の前営業日（2008年9月30日）を10,000円として指数化し、基準価額とTOPIXのグラフや設定来の運用成績の表を作成しています。

※TOPIXは、全てTOPIX（配当込み）を用いています。TOPIX（配当込み）は当ファンドのベンチマーク（運用する際に目標とする基準）ではありませんが、参考として記載しています。TOPIXは、株式会社ＪＰＸ総研が算出、公表する株価指数です。日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。

※TOPIX等の指数値およびTOPIX等に係る標章または商標は、株式会社ＪＰＸ総研または株式会社ＪＰＸ総研の関連会社（以下「ＪＰＸ」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIX等に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIX等に係る標章または商標に関するすべての権利はＪＰＸが有します。ＪＰＸは、TOPIX等の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。当ファンドは、ＪＰＸにより提供、保証または販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもＪＰＸは責任を負いません。

※当レポートにおいて特段の注記がない場合は、基準日時点における組入銘柄比率や運用実績を表しています。また運用成績など 表記の値については小数点第三位を四捨五入して表示しています。そのため組入比率などでは合計が100%にならない場合があります。

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てで表示しています。

※「受益権総口数」とは、お客様に保有していただいている口数合計です。

※ひふみ投信は分配金再投資専用の投資信託です。

※ひふみ投信は、ひふみ投信マザーファンド（親投資信託）を通じて実質的に株式へ投資しています。

※「現金等」には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

資産配分比率などの状況

ひふみ投信マザーファンドの状況	
純資産総額	7,259.30億円
組み入れ銘柄数	291銘柄

資産配分比率	
国内株式	87.83%
海外株式	4.43%
現金等	7.74%
合計	100.00%

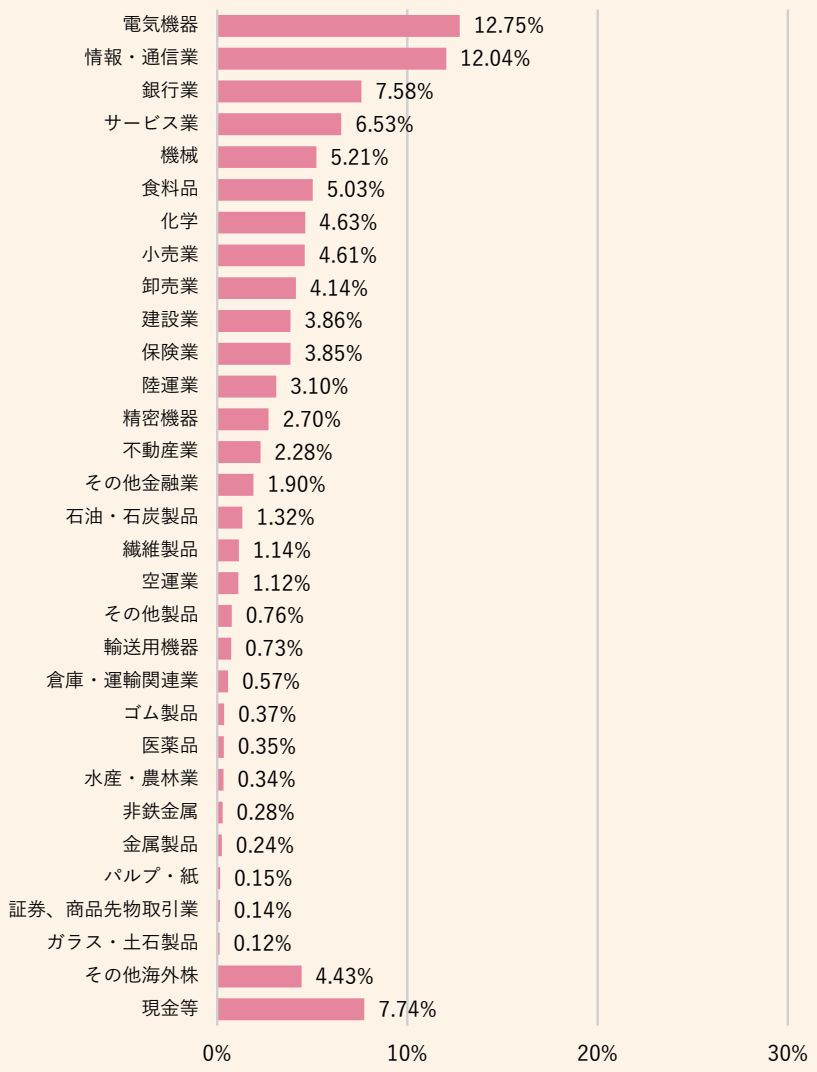
※「資産配分比率」「市場別比率」「業種別比率」 はマザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しております。

※「資産配分比率」の株式には新株予約権を含む場合があります。

※「現金等」には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

市場別比率	
プライム市場	85.57%
スタンダード市場	1.86%
グロース市場	0.40%
その他海外株	4.43%
現金等	7.74%
合計	100.00%

業種別比率



※業種別比率について：東証33業種分類を用いて表示しています。非保有の業種は表示されません。

また海外株式については「その他海外株」として表示しています。

ひふみ投信と市場の比較

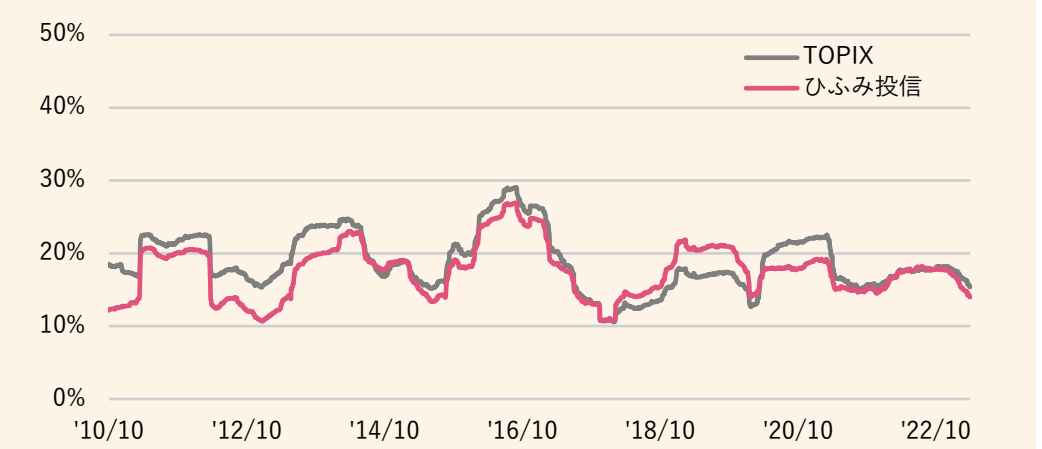
時価総額別比率	
大型株（3,000億円以上）	68.68%
中小型株（300億円以上、3,000億円未満）	21.83%
超小型株（300億円未満）	1.75%
現金等	7.74%
合計	100.00%

アクティブシェア
71.10%

※「時価総額別比率」は基準日時点のBloombergの情報を基に作成しております。
※アクティブシェアについて：基準日時点のTOPIXと比較

解説：アクティブシェアとは
ポートフォリオがベンチマークとどれだけ異なっているかを示します。アクティブシェアは0%～100%の間の数値で100%に近いほど、ベンチマークと異なるポートフォリオであることを示します。TOPIX（配当込み）はひふみ投信マザーファンドのベンチマークではございませんが、参考として算出しています。

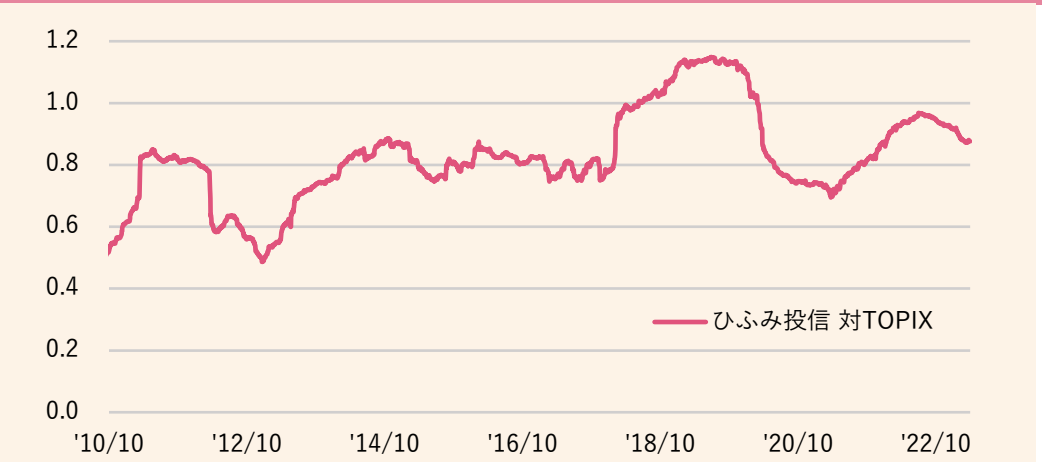
値動きの大きさの推移（250営業日リスク推移）



※値動きの大きさの推移について：設定来の日次リターンを基に過去250営業日のリスク（日次リターンの標準偏差の年率換算値）の推移を表示したもの。

解説：リスクの推移の意味
ひふみ投信とTOPIXのリスク量を比較して分かる事は、簡単に言えば「どのくらいアクセルを踏んでいるか」ということです。アクティブ運用の投資信託は市場環境等に応じて中身（ポートフォリオ）を変化させます。より値動きが大きくなっても上昇機会を得られるとして中身を変化させると、リスクの値は高くなるでしょう。ひふみ投信は概ねTOPIXよりも低いリスクを維持しており、安定的な値動きの運用を目指していることが分かります。

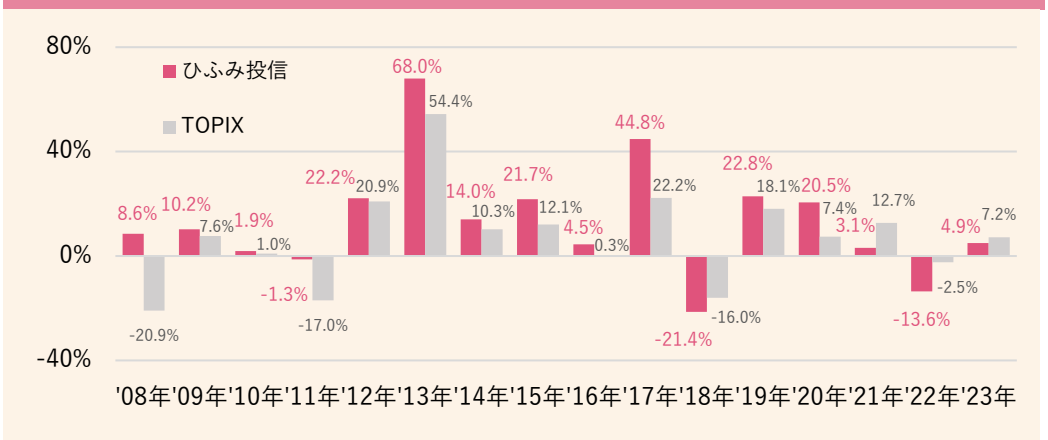
株式市場への値動きの連動性（250営業日ベータ推移）



※株式市場への値動きの連動性について：設定来の日次リターンを基に過去250営業日の対TOPIXとひふみ投信のベータ値の推移を表したもの。

解説：ベータの推移の意味
上記のグラフにおけるベータは、TOPIXに対してひふみ投信がどのくらい連動するかを表します。仮に0.8のとき、TOPIXが1上がると、ひふみ投信は0.8程度の上昇が見込まれます。逆にTOPIXが1下がると、ひふみ投信は0.8程度の下落に留まると見込まれます。

各年の収益率



※各年の収益率について：暦年ベース、2008年は9月末から年末まで、当年は作成基準日（レポート1ページ目右上をご覧下さい）まで。

※各年の収益率は、小数点第二位を四捨五入して表示しています。

※過去の実績は将来の収益を保証するものではありません。

ひふみの主な受賞暦

受賞年	受賞詳細
2023年	投信ブロガーが選ぶ！Fund of the Year 2022 第7位
2022年	R&I ファンド大賞 2022　投資信託10年/国内株式コア部門　優秀ファンド賞
2022年	投信ブロガーが選ぶ！Fund of the Year 2021 第13位
2021年	R&I ファンド大賞 2021　投資信託10年/国内株式コア部門　優秀ファンド賞
2021年	投信ブロガーが選ぶ！Fund of the Year 2020 第5位
2020年	R&I ファンド大賞 2020　投資信託10年/国内株式部門　最優秀ファンド賞
2019年	R&I ファンド大賞 2019　投資信託10年/国内株式部門　最優秀ファンド賞
2018年	R&I ファンド大賞 2018　NISA/国内株式部門　優秀ファンド賞

※R&Iファンド大賞について
「R&Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報（ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません）の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。
R&Iファンド大賞2022の「投資信託10年部門」は過去10年間を選考期間とし、シャープレシオによるランキングに基づき、最大ドローダウンを加味したうえで選考しています。表彰対象は償還予定日まで1年以上の期間があり、残高がカテゴリー内で上位50％以上かつ30億円以上であることが条件です。選考対象は国内籍公募追加型株式投信とし、「投資信託10年部門」は確定拠出年金専用およびSMA・ラップ口座専用以外を対象にしています。評価基準日は2022年3月31日です。
各受賞年の評価基準年月日等は次のとおりです。
・2021年：2016、2021年それぞれの3月末における5年間および2021年3月末時点における3年間のシャープレシオがいずれも上位75％のファンドを対象に、2021年3月末における10年間のシャープレシオによるランキングに基づいて表彰しています。
・2020年：2015、2020年それぞれの3月末における5年間の運用実績データを用いた定量評価および2020年3月末時点における3年間の運用実績データを用いた定量評価がいずれも上位75％に入っているファンドに関して、2020年3月末における10年間の定量評価によるランキングに基づいて表彰しています。
・2019年：2014、2019年それぞれの3月末における5年間の運用実績データを用いた定量評価および2019年3月末時点における3年間の運用実績データを用いた定量評価がいずれも上位75％に入っているファンドに関して、2019年3月末における10年間の定量評価によるランキングに基づいて表彰しています。
・2018年：「NISAスクリーニング」の2018年版（2月8日に公表）の基準を満たしたファンドに関して、2018年3月末における3年間の定量評価によるランキングに基づいて表彰しています。

※投信ブロガーが選ぶ！Fund of the Yearについて
投信ブロガーが選ぶ！Fund of the Yearは、投信ブロガーの投票を運営委員会が集計したランキングです。当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証したものではありません。各受賞年の評価基準年月日等は次のとおりです。海外籍ETFについては、日本の証券会社を通じて買付可能なものを対象としています。
・2021年：2020年10月31日までに設定された投資信託（ETF含む）が対象です。http://www.fundoftheyear.jp/2020/
・2022年：2021年10月31日までに設定された投資信託（ETF含む）が対象です。http://www.fundoftheyear.jp/2021/
・2023年：2022年10月31日までに設定された投資信託（ETF含む）が対象です。http://www.fundoftheyear.jp/2022/

銘柄紹介（基準日時点の組入比率1~10位）

	銘柄名	銘柄コード	規模	上場市場	業種	組入比率
	銘柄紹介					
1	アドバンテスト	6857	大型	プライム市場	電気機器	3.13%
	創業時から「計測する技術」を活かして事業を展開。現在では、半導体検査装置において世界でも大きなシェアを有する。スマホやサーバー向けの半導体需要を背景に堅調な業績が期待される。					
2	ソニーグループ	6758	大型	プライム市場	電気機器	2.00%
	PS5発売に伴うハードウェア売上や、4,500万人を超えるPlayStation Plus（ゲームサブスクリプション）会員、堅調な金融事業、スマホカメラの多眼化によるCMOSイメージセンサーの需要増などを背景に好調な業績が期待される。					
3	ディスコ	6146	大型	プライム市場	機械	1.80%
	半導体の材料となるウエハの切断・研削・研磨装置で世界シェアナンバーワンのメーカー。半導体製造は何年もかけて変化してきたが、その変化に対応し成長を続ける。社員の働きやすさの配慮もある。					
4	日本電信電話	9432	大型	プライム市場	情報・通信業	1.78%
	NTTドコモ、NTT東西、NTTデータなどの持ち株会社。移動通信、長距離通信、データ通信、法人向けシステム、データセンターなど多岐にわたる情報通信事業を抱える。					
5	東京海上ホールディングス	8766	大型	プライム市場	保険業	1.74%
	生命保険、損害保険、不動産、資産運用を備える大手。昨今では海外企業の買収や資本政策が話題であり、成長と還元のバランスが優れている日本の保険のエクセレントカンパニーといえる。					
6	インターネットイニシアティブ	3774	大型	プライム市場	情報・通信業	1.70%
	企業向けのプロバイダー、個人向けの格安スマホが主力事業。近年はインターネットのセキュリティ分野やシステム開発などでも成長している。					
7	ＧＭＯペイメントゲートウェイ	3769	大型	プライム市場	情報・通信業	1.65%
	決済処理サービス企業大手。ネット・ショッピングの普及を背景に高成長が安定的に継続する。相浦一成氏の強いリーダーシップの下、国内では大手銀行と業務提携を進め、海外では決済関連企業への投資を行なう。					
8	味の素	2802	大型	プライム市場	食料品	1.63%
	調味料や冷凍食品などで高い国内シェアを持ち、海外でも独自に構築した販売チャネルを幅広く展開している。食品事業の他に、半導体向け材料やバイオ向けサービスなど高収益な事業も伸びており、成長が期待できる。					
9	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	8306	大型	プライム市場	銀行業	1.56%
	日本3大金融グループの一角。銀行業務を中心に行なう総合金融サービスコングロマリット。関連会社が米国にあり、他のメガバンクとの違いとなっている。					
10	伊藤忠商事	8001	大型	プライム市場	卸売業	1.53%
	日本を代表する5大商社の一角。傘下にファミリーマートがあり、一般消費者に身近な企業。しかし、その実態は資源、エネルギー、食品、機械、ICTなどの事業に事業分散しており、収益性の安定した成長性と株主還元への積極姿勢が魅力。					

※規模は作成基準日時点の時価総額と以下の区分に基づき作成しています。
　大型（3,000億円以上）、中小型（300億円以上、3,000億円未満）、超小型（300億円未満）
※「組入比率」はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

銘柄紹介（2022年12月30日時点）

	銘柄名	銘柄コード	規模	上場市場	業種	組入比率
1	アドバンテスト	6857	大型	プライム市場	電気機器	2.31%
2	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	8306	大型	プライム市場	銀行業	2.25%
3	東京海上ホールディングス	8766	大型	プライム市場	保険業	2.04%
4	第一生命ホールディングス	8750	大型	プライム市場	保険業	1.89%
5	日本電信電話	9432	大型	プライム市場	情報・通信業	1.79%
6	ＧＭＯペイメントゲートウェイ	3769	大型	プライム市場	情報・通信業	1.68%
7	三井住友フィナンシャルグループ	8316	大型	プライム市場	銀行業	1.67%
8	インターネットイニシアティブ	3774	大型	プライム市場	情報・通信業	1.60%
9	ディスコ	6146	大型	プライム市場	機械	1.56%
10	伊藤忠商事	8001	大型	プライム市場	卸売業	1.56%
11	味の素	2802	大型	プライム市場	食料品	1.51%
12	メルカリ	4385	大型	プライム市場	情報・通信業	1.28%
13	MICROSOFT CORPORATION	MSFT	大型	NASDAQ	その他海外株	1.28%
14	日本航空	9201	大型	プライム市場	空運業	1.23%
15	東京エレクトロン	8035	大型	プライム市場	電気機器	1.22%
16	オリエンタルランド	4661	大型	プライム市場	サービス業	1.14%
17	ＴＩＳ	3626	大型	プライム市場	情報・通信業	1.10%
18	三井住友トラスト・ホールディングス	8309	大型	プライム市場	銀行業	1.04%
19	CORTEVA, INC	CTVA	大型	NYSE	その他海外株	1.00%
20	光通信	9435	大型	プライム市場	情報・通信業	0.99%
21	ジャパンマテリアル	6055	中小型	プライム市場	サービス業	0.98%
22	NEXTERA ENERGY, INC	NEE	大型	NYSE	その他海外株	0.97%
23	りそなホールディングス	8308	大型	プライム市場	銀行業	0.97%
24	日立製作所	6501	大型	プライム市場	電気機器	0.97%
25	ＳＭＣ	6273	大型	プライム市場	機械	0.95%
26	プレミアムウォーターホールディングス	2588	中小型	スタンダード市場	食料品	0.94%
27	ショーボンドホールディングス	1414	大型	プライム市場	建設業	0.93%
28	ふくおかフィナンシャルグループ	8354	大型	プライム市場	銀行業	0.86%
29	クレハ	4023	中小型	プライム市場	化学	0.85%
30	ＥＮＥＯＳホールディングス	5020	大型	プライム市場	石油・石炭製品	0.84%

※規模は以下の区分に基づき作成しています。
　大型（3,000億円以上）、中小型（300億円以上、3,000億円未満）、超小型（300億円未満）
※「組入比率」はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

投資環境（株式市場等での出来事）について

トレーディング部長
岡田 雄大

3月の株式市場は米国中堅銀行のシリコンバレー銀行（SVB）発の信用不安から軟調に推移する場面が見られましたが、月後半は過度の信用不安の後退、そして信用不安を背景にした金利低下や中央銀行による流動性供給（金融機関に潤沢に資金を供給すること）が株式市場にフォローとなって反発に転じ、月末の日経平均株価は前月比+2.2％の28,041.48円に続伸しました。

3月の日経平均株価は堅調な展開で始まりました。米国ではインフレや雇用データの強い結果、またFRB（連邦準備制度理事会）メンバーのタカ派（金融引締め派）発言が目立つ中で金利が上昇、為替市場では米ドル買いが進みました。株式市場は景況感の改善とインフレ懸念という好悪材料が入り混じる中で上値の重い市場が目立ち、日経平均株価は1カ月以上に渡り狭いレンジ内で揉み合っていましたが、円安基調も手伝って3月に入るとレンジを上抜け、9日には28,734円と約7カ月ぶりの水準まで上昇しました。

しかし9日の米国市場から一気にリスクオフムードにシフトしました。SVBが預金の急流出を受けて増資と保有資産売却を発表、更に翌日には増資計画の失敗と身売り交渉開始、そして破綻と伝わり、銀行株が急落しました。米当局は即座にSVBと同じタイミングで破綻となった地銀の預金全額保護を発表しましたが、金融不安は収まらず、15日にはスイスの大手銀行クレディ・スイスにも信用不安が飛び火しました。グローバルで銀行株が足枷となって多くの株式市場が軟調推移を余儀なくされ、日経平均株価は16日に26,632円と2カ月ぶりの安値水準まで下落、僅か5営業日で最大2,000円超下落しました。ただし、米国株に関してはリスクオフによる金利低下などを背景にハイテク株など低金利メリット銘柄が上昇した結果、NASDAQはむしろ堅調に推移するなど指数ベースでは底堅い値動きとなりました。

その後、米国の複数の大手銀行が一部の地銀への救済措置を決定し、また米当局が預金保護拡大の可能性を示唆するなど、信用不安払拭への取り組みが続きました。預金保護拡大への否定的な声や銀行への規制強化の声も強まるなかで、銀行株の反発力は限定的となりましたが、ひとまず過度の信用不安が後退したこと、また信用不安によってFRBによる流動性供給が再拡大したこと、そして金利が低下したことで銀行株以外への押し目買い圧力が強まって株式市場全般が堅調な動きにシフトしました。日経平均株価も月後半は堅調な動きに終始し、前月比プラス圏を回復して月末を迎えました。

（4月3日）

※組入比率など運用についての記述は、すべてひふみ投信マザーファンドに関するご説明です。

※当資料では「ひふみ投信マザーファンド」のことを「ひふみ」と略する場合があります。

※日経平均株価に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社日本経済新聞社に帰属します。

運用責任者よりお客様へ

代表取締役 会長兼社長
最高投資責任者
藤野 英人

2023年3月は中規模の金融破綻が見られて、リーマンショック以来の金融危機再来の懸念が台頭しました。米国の中堅銀行のシリコンバレー銀行が経営破綻し、それにともない地域銀行に対する不安感が台頭しました。また、その余波としてクレディ・スイスが信用不安に陥り、同じくスイスのUBS銀行が救済買収をすることになりました。一方で米国の金融当局の速やかな対応と各国金融当局の連携で信用不安は徐々に沈静化して、現在のところ株価は回復傾向です。

日本の株式市場もその余波を受けて大きく下落しましたが、金融不安の沈静化とともに徐々に回復をしています。ただし金融株はその余波を受けて大きく下落しました。ひふみは金融株をオーバーウエイトにしていましたが、今回の金融不安を受けてその比率を下げました。そのおかげで、今月は少しTOPIXに対して下回りましたが、一方で速やかな金融株の削減により下落幅をおさえることができました。

一方でコロナ禍の沈静化とともにインバウンド観光が戻りはじめ、国内においても人の移動が活発化し始めました。これは内需企業や観光産業にとっては大きな恩恵になります。当ファンドもいわゆるリオープニング関連企業のウエイトを積み増しています。また、長らく振るわなかった半導体関連企業も復調の兆しを示しており、これからはよりポートフォリオを守備よりも攻撃型に変えていくことによってお客様に喜んでいただける運用をしていこうと思っています。

この結果、3月のTOPIX（東証株価指数、配当込み）が前月比+1.70％に対しひふみ投信は+0.61％でした。4月以降しっかり巻き返しを図り、お客様に喜んでいただける運用をしていこうと考えております。

これからも全力で運用をしますので、何卒ひふみをよろしくお願いいたします。

（4月6日）

※組入比率など運用についての記述は、すべてひふみ投信マザーファンドに関するご説明です。

※当資料では「ひふみ投信マザーファンド」のことを「ひふみ」と略する場合があります。

市場環境の見通しについて

運用本部
経済調査室長
三宅一弘

米国の中堅銀行破綻で投資環境見通し急変

金融政策転換(利上げ停止、利下げ)観測急浮上

米国の複数の中堅銀行が3月前半に経営破綻しました。規制当局(米財務省、FRB、FDIC)は金融危機回避のために預金全額の保護や緊急流動性供給措置を発動しましたが、世界金融大手クレディ・スイス(CS)の信用不安に波及しました。これに対し、主要6中央銀行は協調してドル資金の供給拡充を少なくとも4月末まで行なうと発表、スイス政府・中央銀行の働きかけでスイス最大手のUBSがCSの救済合併を決定、当局による金融危機防止策の発動で金融不安は後退し、現状小康状態にあります。投資環境面では米金融政策の転換(利上げ停止、利下げ)観測が台頭するなど急変の様相です。今回の金融ショックに対して、米国のS&P500種など平均株価は金融政策転換観測が波乱を吸収して底堅い展開ですが、地方銀行株は急落後の安値圏で推移しています。

米国の銀行破綻の構図は、コロナ禍対策の「巨額の財政出動(家計や中小企業への現金給付)と金融緩和」によって銀行の預金が急増、半面で有価証券投資・貸出(低利の債券投資、固定金利融資)も増大しましたが、「巨額の財政出動と金融緩和」が物価高騰を招き、2022年春以降の強硬な金融引き締め(金利急騰、さらに長短金利逆転・逆ザヤ)で一転、預金流出、債券投資や固定金利融資の損失増大を招き、銀行の収益やバランスシートが急激に悪化したことにあります。

80年代半ば以降の米国の金融引き締め局面を振り返ると、最終盤で金融危機や、新興国の通貨危機が発生するケースが殆どでした。前者の典型が2008年の世界金融危機(GFC)であり、後者が97年のアジア通貨危機でした。そして、いずれのケースも金融政策は利上げの停止、利下げに政策転換し、危機対応を図りました。米国の金融政策は今回、インフレ抑制のために引き締めを継続するのか、金融不安抑制のために利下げに転じるのか、難しい選択を迫られていますが、金融政策の転換(利上げ停止、利下げ)時期が接近していると予想します。

今後の米国経済、そして世界経済を占う上で、預金が流出し、経営環境が厳しい米国の銀行がどの程度、与信を厳格化するのかが注目されます。与信厳格化は信用収縮的な引き締め効果を現出し、特に不動産関連融資の抑制は昨今の米物価高騰の一因になっている住居費(家賃)の抑制に効くなど、物価減速の流れを後押しするでしょう。また、信用収縮は景気に対して強い重石になるため、信用収縮の兆候が見えてくれば、金融政策は一気に緩和に転じるでしょう。

世界金融危機時と比べて今回は、米国の家計や企業が過剰債務・過剰投資に陥っておらず相対的に健全だと推察されます。また、世界経済には①コロナ収束に伴う経済再開とサービス消費の同時的拡大、②ハイテク中心に東西(米中)両陣営のサプライチェーン再構築・投資ブームという強いドライバーがあります。主要国経済・企業収益(予想EPS)は深刻な不況(景気後退)を回避しながら軟着陸する可能性があると推察します。2022年は米国や欧州株が弱気相場となりましたが、2023年は市況好転、日本株は約2年間のボックス相場を上抜ける展開が期待されます。米金融政策が教訓を活かし大胆な利下げで金融危機を回避できるかがカギになりそうです。

米国株をはじめ現状の主要国株式は、米金融政策転換の先取相場の様相です。物色面では世界的な経済再開で恩恵を受けるサービス消費関連やシリコンサイクル(世界半導体出荷額)の底入れ接近観測からハイテク株が市場人気を集めるなど、成長株優位化の流れになりそうです。

(4月4日)

運用メンバーからのメッセージ

毎月、トピックを用意して運用メンバーのコメントを集めています。
多様な考えや価値観をお届けすることを通じて、新しい視点を持っていただくきっかけになれば幸いです。

今月のトピック

少しずつ暖かくなってきましたが、春といえば何を連想しますか？

Fujino Hideto
藤野 英人
代表取締役会長兼社長
最高投資責任者

正月をむかえるときにはなぜか新しい年を迎える喜びしかないですが、春になると嬉しさ以上に悲しみも広がります。おそらく、４月が卒業や入学などのイベントがあり、新年度を迎える気持ちが強く、正月よりも一年の重みを感じるからでしょう。

Yuasa Mitsuhiro
湯浅 光裕
代表取締役副社長
未来戦略部長

三寒四温を体感し、そぼふる雨を眺めながらこぬか雨、春時雨など表現の豊かさを思い起こします。

Watanabe Shota
渡邉 庄太
運用本部長
株式戦略部長
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

タケノコです。山歩きが好きな親戚から送ってもらったものを、自分で茹でて炊き込みご飯などを作っていました。最近は手間暇掛けてきちんと調理できておらず、ちょっと寂しい気もします。

Yatsuo Hisashi
八尾 尚志
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる」という文章が頭に浮かびます。枕草子はこの後「夏は夜」、「秋は夕暮れ」、と続くわけですが、これらはすべて「モノ」ではなく「時間」という全ての人に等しく与えられ、そして時代を超えて必ず感じられるものです。そこに趣があるとする清少納言の美意識と表現の素晴らしさに本当に感心するのです。

Sasaki Yasuto
佐々木 靖人
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

花粉、桜、入学式、新入社員、出会い、そして期初ガイダンスの決算発表シーズンを想起します。新入社員で思い出したのですが、4月に突然現れ、5月にはあの初々しい集団はいなくなりますよね。何かの集団に溶け込むのにかかる期間は1ヶ月くらいなんでしょうか。

Wei Shanshan
韋 珊珊
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

万物が蘇り、木々に色鮮やかな新芽が出て、希望と変化に満ちた美しい季節です。厳冬を終え、これからの一年～と考えると、いつもわくわくします。

運用メンバーからのメッセージ

	Takahashi Ryo 高橋 亮 シニア・アナリスト シニア・ファンドマネージャー	夏を連想します。とにかく蒸し暑くて不快な夏が嫌いすぎるあまりに、春になると「ああ、もうすぐ夏が来る…」と陰鬱な気分になります。それだけ夏が本当に苦手です。冬が終わると、ひたすら秋の便りだけを楽しみに待つことになります。
	Senoh Masanao 妹尾 昌直 シニア・アナリスト	心機一転、始まりを連想します。運用で勝っても負けても、心あらたにまた頑張ろうと思わせてくれる季節です。また周囲が賑やかになることもあり、なんとなく自分も落ち着かず浮かれてしまう傾向があるので、身を引き締めていこうと思う季節でもあります。
	Oshiro Shintaro 大城 真太郎 シニア・アナリスト	花粉症の苦しみをプロ野球で紛らわす季節
	Naito Makoto 内藤 誠 シニア・アナリスト	上野公園の桜を思い浮かべます。家からも近いので3月後半になると見に行くようにしています。学生にとっては新学期、社会人にとっては新年度と、桜を見るたびにいつも新しいスタートラインに立つ気持ちになります！
	Moriyama Haruki 森山 治紀 アナリスト	先日近所の川を通りかかったので覗いてみると、冬眠明けのスッポンがゆっくりと泳ぐ様子を確認できました。春ですね。
	Matsumoto Ryoga 松本 凌佳 アナリスト	太陽の光を浴びながら、景色の良いところを自転車でのんびり進むことが好きです。そういう意味では、手袋をしなくても手がかじかむことがなくなったとき、春を感じます。春の暖かさに包まれていると、甘いものが食べたくなります。ソフトクリームやお団子、暑いくらいの日ならかき氷が脳裏に浮かびます。

運用メンバーからのメッセージ

Miyake Kazuhiro
三宅 一弘
運用本部
経済調査室長

春は桜、ハナミズキ、つつじなど自宅周りの草木が一斉に花咲く季節ですが、1990年頃に比べて2～3週間早く花咲くことに驚いています。鰹やタケノコ、空豆･･･と美味しい食材が楽しみな季節です。昨年度は米利上げに終始しましたが、新年度は利下げと株価好転に期待したいです。

Hashimoto Yuichi
橋本 裕一
マーケットエコノミスト

小学生の頃、次の学年に上がるとゲームのレベルアップのようにとても成長するのだろうと常日頃思って生活していました。しかし実際4月に学年が1つ大きくなっても、それだけでは自分のココロもカラダも全然成長しないことに気づきました。人間そんなにすぐには変わらないんだなぁと毎年春に感じていました。

お知らせ

お金のまなびば！新着動画

投資やお金を楽しく学ぶYouTubeチャンネル「お金のまなびば！」では、 新動画を続々アップ中です！
今回は、インフルエンサーの田端信太郎さんとCAMPFIRE代表としても知られる家入一真さんをお呼びした対談動画が公開されました。ぜひご視聴ください！

【前編】お金があれば自由？堀江貴文に学ぶお金観
【中編】前澤友作から学んだお金の考え方
【後編】新社会人必見!! 社会で重宝される人材になるためには

【前編】引きこもりから社長へ 絶望からの脱却
【後編】生きづらい環境から一歩踏み出せる社会へ

ひふみ公式LINEアカウント

ひふみ

「ひふみ」を運用するレオス・キャピタルワークスはお客様に向けてLINEでの情報提供を始めました。お客様と長期的な資産形成を一緒に行なっていくためにさまざまな情報をお届けします。

こちらからLINEお友だち登録をお願いします

またはLINEにて「ひふみ」で検索

LINEでできること
- ✓ ひふみ口座へのログイン
- ✓ 記事コンテンツ、映像コンテンツの配信をお知らせ
- ✓ 当社イベント・セミナーのお知らせと申し込み
- ✓ メニュー画面からYouTube「お金のまなびば！」へ簡単アクセス
- ✓ 随時、ひふみからの記事や動画のお知らせも届きます！

ひふみ投信の特色

「ひふみ投信」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。
① 国内外の上場株式を主要な投資対象とし、市場価値が割安と考えられる銘柄を選別して長期的に投資します。
② 株式の組入比率は変化します。
③ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

ひふみワールドの特色（ご参考）

「ひふみワールド」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。
① 日本を除く世界各国の株式等を主要な投資対象とし、成長性が高いと判断される銘柄を中心に選別して投資します。
② 株式の組入比率は変化します。
③ 株式の組入資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。
④ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

ひふみらいとの特色（ご参考）

「ひふみらいと」は、投資信託証券への投資を通じて、主として内外の株式および内外の債券に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行ないます。
① 投資信託証券への投資を通じて、世界の株式および債券等に分散投資を行ないます。
② 原則として、株式に約10%、債券に約90%投資します。

投資リスク

■ 基準価額の変動要因

- 投資信託証券への投資を通じて株式など値動きのある証券（外国の証券には為替リスクもあります。）に投資いたしますので、基準価額は、大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。これらの運用により生じる利益および損失は、すべてお客様（受益者）に帰属します。
- 投資信託は預貯金等とは異なります。

■ 基準価額の変動要因となる主なリスク

価格変動リスク	国内外の株式や公社債を実質的な主要投資対象とする場合、一般に株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は発行体の信用力の変動、市場金利の変動等を受けて変動するため、その影響を受け損失を被るリスクがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性のもとでの取引が行なえない、あるいは不利な条件で取引を強いられたり、または取引が不可能となる場合があります。これにより、当該有価証券等を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
信用リスク	有価証券等の発行者や有価証券の貸付け等における取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想される場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となるおそれがあります。投資した企業等にこのような重大な危機が生じた場合には、大きな損失が生じるリスクがあります。また、実質的に投資した債券の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、債券価格が下落する可能性があり、損失を被るリスクがあります。
為替変動リスク	外貨建資産を組み入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失が生じることがあります。また、一部の資産において、為替ヘッジを行なう場合に円の金利が為替ヘッジを行なう通貨の金利より低いとき、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。
カントリーリスク（エマージング市場に関わるリスク）	当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、有価証券等の価格が大きく変動するリスクがあります。エマージング市場（新興国市場）への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券等の価格変動が大きくなる場合があります。また、新興国の公社債は先進国の公社債と比較して価格変動が大きく、債務不履行が生じるリスクがより高いものになる可能性があります。

※投資リスク(基準価額の変動要因)は、上記に限定されるものではありません。

当資料のご留意点

■ 当資料はレオス・キャピタルワークスが作成した販売用資料です。投資信託のお申込みにあたっては、事前に販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
■ 当資料に記載されている当社が運用する投資信託の過去の運用結果等は、将来の結果等をお約束するものではありません。また、当該過去の運用結果等は、当該投資信託に投資をされた各投資家の利回りを表すものではありません。運用実績は投資信託の利益にかかる税金等を考慮していません。
■ 当資料は作成日における信頼できる情報に基づき作成しておりますが、内容の正確性・完全性を保証するものではなく、また記載されている内容は予告なく変更される場合があります。
■ 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
■ セミナー等で金融商品の説明等をすることや、お客様からのご依頼がある場合に金融商品に関連する追加の説明等をすることがあります。しかしながら、売買の推奨等を目的とした投資勧誘は行ないません。また、金融商品の案内、説明等はあくまで各お客様ご自身のご判断に資するための情報提供目的であり、金融商品の購入等を推奨するものでもありません。

お申込メモ

	ひふみ投信	ひふみワールド（ご参考）	ひふみらいと（ご参考）
商品分類	追加型投信／内外／株式	追加型投信／海外／株式	追加型投信／内外／資産複合
当初設定日	2008年10月1日	2019年10月8日	2021年３月30日
信託期間	無期限		
決算日	毎年9月30日(休業日の場合翌営業日)	毎年2月15日(休業日の場合翌営業日)	毎年4月15日(休業日の場合翌営業日)
収益の分配	決算時に収益分配方針に基づいて分配を行ないます。 分配金再投資専用のため、分配金は自動的に再投資されます。		
購入単位	1,000円以上1円単位の金額指定で受け付けます。		
購入価額	ご購入のお申込受付日の翌営業日の基準価額（1万口当り）		
購入代金	販売会社が定める日までに販売会社にお支払いください。		
換金(解約)単位	1口以上の口数指定または1円単位の金額指定で受け付けます。		
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1万口当り）		
換金代金	換金申込受付日から起算して5営業日目から支払われます。		換金申込受付日から起算して6営業日目から支払われます。
購入・換金申込受付不可日	—	ニューヨーク証券取引所または香港証券取引所のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、申込受付は行ないません。	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、香港証券取引所、香港の銀行またはロンドンの銀行のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、お申込受付は行ないません。
申込締切時間	購入・換金ともに、毎営業日の15時までに受け付けたものを当日のお申込みとします。		
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。配当控除の適用はありません。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。		

お客様にご負担いただく費用

◇直接ご負担いただく費用： ありません。

申込手数料・換金（解約）手数料・信託財産留保額　は一切ありません。なお、「スポット購入」に際しての送金手数料はお客様負担となります。

◇間接的にご負担いただく費用： 次のとおりです。

	ひふみ投信	ひふみワールド（ご参考）	ひふみらいと（ご参考）
運用管理費用（信託報酬）	信託財産の日々の純資産総額に対して年率1.078％（税込）を乗じて得た額	信託財産の日々の純資産総額に対して年率1.628％（税込）を乗じて得た額	ひふみらいと：信託財産の日々の純資産総額に対して年率0.55％（税込）を乗じて得た額 投資対象とする投資信託証券(ひふみワールドファンドFOFs用(適格機関投資家専用))：純資産総額に対して年率0.0022％（税込） 実質的な負担※：純資産総額に対して年率0.5522％（税込）程度
	信託報酬とは、投資信託の運用･管理にかかる費用のことです。日々計算されて、投資信託の基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産から支払われます。 ※投資対象ファンドを基本の組入比率で按分した投資対象ファンドの運用管理費用（信託報酬）を加味して、投資者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。この値は目安であり、各投資信託証券への投資比率の変更等により変動します。また、投資対象ファンドの変更等により今後変更となる場合があります。		
監査費用	信託財産の純資産総額に対して年率0.0055％（税込）以内を乗じて得た額。監査費用は監査法人との契約条件の見直しにより変更となる場合があります。日々計算されて、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。		
その他費用・手数料	組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料 （それにかかる消費税）、先物取引・オプション取引等に要する費用、外貨建資産の保管等に要する費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息など。		投資対象とする投資信託証券における諸費用および税金等、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息など。
	これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、予めその金額や上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。		

※手数料等の合計金額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

ファンドの関係法人

委託会社：レオス・キャピタルワークス株式会社
　　金融商品取引業者　関東財務局長(金商)第1151号
　　加入協会　一般社団法人投資信託協会
　　一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社：（ひふみ投信）三井住友信託銀行株式会社
　　（ひふみワールド）三菱UFJ信託銀行株式会社
　　（ひふみらいと）三井住友信託銀行株式会社
販売会社：レオス・キャピタルワークス株式会社

各ファンドについてのお問い合わせ先

RHEOS CAPITAL WORKS

レオス・キャピタルワークス株式会社
コミュニケーション・センター
電話：03-6266-0123　メール：cc@rheos.jp
受付時間：営業日の9時～17時
ウェブサイト：https://www.rheos.jp/